

あなたをプラスの人生へと導く

# しなげ

2  
2018



あなたの初めは小さくあっても  
あなたの終りは非常に大きくなるであろう。  
(ヨブ記 8:7)

純福音東京教会・出版部

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町 2-2-19 Tel.03-3232-0067 Fax.03-3232-0729 [www.fgtc.jp](http://www.fgtc.jp)

Full Gospel Tokyo Church



# CONTENTS

- 2 三つの宝 ..... イ・ヨンフン牧師
- 3 ヨンサンコラム ..... チョウ・ヨンギ牧師
  - ・新年にどんな名前をつけてあげますか？
- 6 メッセージ ..... 志垣重政牧師
  - ・自尊心
- 9 信仰の明文化を成し遂げますように②③ ..... イ・ヨンフン牧師
  - ・真の祝福は何か
- 13 主と歩く ..... ヘンリー・グルーバー牧師
  - ・神よ、わたしをお守りください
- 19 コラム | あなたと共にいる① ..... キム・ソンイル小説家
  - ・あなたと共にいる
- 28 統一時代を開く ..... ベン・トレイ牧師
  - ・わたしは思い出すであろう
- 34 我が人生のプラス .....
  - ・ある物理学者が悟った霊魂に関する話
  - ・死なねばならないのなら死にます
  - ・神様がくださったのはいつも有益である
- 47 企画 | ..... パク・ヨンス宣教師
  - ・全世界的に吹き荒れる性別破壊の熱風をどのようにとらえるか
- 54 これが知りたい ..... シン・ソンジョン牧師
  - ・聖書では、右側に座ることと左側に座ることにおいて  
差違があるが、これにはどんな理由があるのだろうか？

この「しなげ」は、おもに韓国版信仰界 1 月号より抜粋して、翻訳し再構成したものです。  
ちなみに、聖書の御言葉は「口語訳」を引用しています。

## 三つの宝

イ・ヨンフン 牧師

インディアン部族の話です。

「どうすれば成功した人になるのでしょうか？」

戦士の息子が父親に聞いたとき、無数の戦争を経験し、一族を築き上げたリーダーは微笑みながら言いました。

「ワシの目を持ち、手には何でも斬られる剣を持たなければならない。そして、胸には歌が溢れなければならない。これが3つの宝物だ。」

新しい一年が始まりました。新しい道の出発点に立っています。年が変わるたびに切に感じるのは、人間の時間的有限性と神の超越的な無限性です。歴史と時間の所有者は、主です。主はアルファとオメガであります。その主に一年を始める今、3つの宝物を求め、祈りましょう。

第一はワシの目のような広い洞察力です。狭く見るのではなく、常に「その向こうを眺める視野」を持つとき、祝福の世界を享受することができますでしょう。

第二は、真理の剣、聖霊の剣です。そして鋭い決断力です。御言葉と御力に従うとき、後悔しない選択をするからです。

第三は、胸に溢れる歌——肯定的な信仰であり、賛美です。主イエスは十字架の受難を控え、オリブ山に出掛けるとき、溢れる賛美を歌われました。(マルコ 14:26 参照)

2018年の一年、三つの宝を求め、祈りながらスタートしましょう。†

## ヨンサンコラム

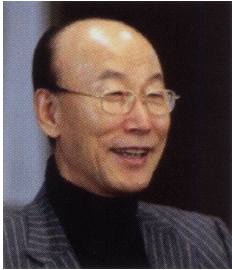
### 新年に どんな名前を つけてあげますか？

新年の希望に満ちた太陽が全世界を照らしながら昇りました。この太陽は無限の可能性を持って、誰にも公平に照らしています。

しかし同じ太陽の下でも、ある人は毎日毎日を勝利と喜び、祝福で満たしていく反面、ある人は悲しみと敗北、絶望に染まって過ごします。どうしてこのようなことが起こり得ますか。それは与えられた日々に正しい名前をつけることができなかったからです。名前は人、物事の性格と運命を決定づける重要な役割をします。

創世記 2 章 20 節の御言葉を見ると、アダムは神様が創られたすべての動物に、賢く名前をつけていることを見ることができます。

「それで人は、すべての家畜と、空の鳥と、野のすべての獣とに名をつけた。」



チョウ・ヨンギ 牧師  
ヨイド純福音教会元老牧師

単一教会として世界最大規模であるヨイド純福音教会の元老牧師として仕えている。筆者は、美しい社会作りへの参加と、真の福祉社会のために、キリスト教精神を基にして設立された「ヨンサン・チョウ・ヨンギ慈善財団」の理事長として、第二の働きを繰り広げている。

神様は人間に名前をつけることができる能力、つまり性格と運命を決定づける偉大な能力を与えてくださったのです。

聖書を見ると、神様は一人の人間の運命を変化させるときには必ず、その名前からまず変えられたことを知ることができます。アブラハムは99歳になるまで子どもがいなかったが、99歳になる年に、神様は彼の名前をアブラムから「アブラハム」に変えられました。アブラハムとはヘブライ語で「多くの民族の父」という意味です。彼の妻サライは、サラ、すなわち「女主人」、「国々の民の母」という意味の新しい名前に変えてくださいました。そして、その名前の通りに、アブラハムとサラは多くの民族の父と母になる運命の変化を体験しました。

イエス様もこのようなことを行われたことがあります。主はガリラヤ湖で気が短く、荒くて、変わりが激しい男に出会いましたが、彼の名前は「葦」という意味のシモンでした。しかしイエス様はシモンの名前をペテロ、すなわち「岩」という意味の名前に変えてくださいました。実際、ペテロは教会の柱となって岩となりました。



今日、私たちに名前もなく巡ってくる一日一日に名前をつけてあげることは、非常に重要な意味を持っています。ある人は「一日」という時間に、どのように名前をつけることができるかと反問することもあります。実際名前をつけているという事実を知る必要があります。

例えば朝起きて「今日は運がない」というならば、本当に運のない日になり、「面倒くさくて生きたくない」といえば、実際一日中面倒なことばかりで、大変な一日を過ごすことになります。しかし、朝起きて「楽しい一日」とか、「やりがいのある一日」や「元気な一日」という名前をつけるなら、そのようなことが一日中起るのです。

これと同様に、新年にも名前をつけると新年の性格と運命が決定され、その通りになります。全く新しく無限の可能性を持った新年を神様からプレゼントされました。アダムに動物を送ってご覧になった神様は、今日も皆さんを見ておられます。皆さんが名前をつける光景を見ておられるのです。

今年はどうな名前をつけてあげますか？†





## 自尊心

—— コリント人への第二手紙 5 章 17 節 ——

「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。」

私たちが幸福に暮らすためには、健全な自尊心を持つことが必要です。自尊心を失ってしまうと、挫折感と劣等感に苛まれ、自己のイメージが破壊され、反抗的かつ反社会的、破壊的にならざるを得ないからです。主は、私たちを見捨てることはありません。主は、「彼が正義に勝ちを得させる時まで、いためられた葦を折ることがなく、煙っている燈心を消すこともない」（マタイ 12:20）のです。主が私たちの自尊心を傷つけることは、絶対にありません。神にかたどって創られた尊い存在だからです。その自尊心とは何でしょうか？

まずは、悪魔が人間の自尊心を破壊する機会をうかがっていることを知しましょう。アダムとエバは、罪を犯すことによって自尊心を失いました。本来、人には人格の尊厳性があり、自

尊心があります。神様はその自尊心を満足させるために、エデンの園を備えられたのです。しかし、悪魔の巧妙かつ狡猾な罠に陥り、罪を犯し、自尊心に深い傷を負いました。裸であることに羞恥（しゅうち）を覚え、神の御前から逃げようと木の陰に隠れました。いちじくの葉で前を隠しましたが、尊厳を守ることではできませんでした。自尊心と尊厳を失い、不安と恐れに怯える二人に、神様は獣の皮で衣を作り、最低限度の自尊心を守ってくださった後、エデンの園から追放なさいました。人類は、自尊心を守ること、尊厳を維持することが、どれほど困難であるかを体験するようになりました。夫婦間の諍い、兄弟同士の殺し合い、憎しみ、これらが悪魔の狙い、盗み、殺し、滅ぼすことなのです。

次に、自尊心を失わせる要因を知りましょう。第一に、罪は、裸になった自尊心に羞恥を与えます。良心の前に裸をさらけ出した自尊心は深く傷つくのです。自分を尊重することができなくなり、卑屈な言動や行動を取り、正常な対人関係の維持が困難になります。疎外感を感じ、喜びを見出すことができず、乱暴になっていきます。それは、神の御旨ではありません。第二に、人生における失敗が、自尊心の喪失に追い打ちをかけます。受験や就職、結婚に失敗し、挫折感や劣等感に陥り、自分自身に『失敗者』『無能者』のレッテルを貼ります。自暴自棄になり、自らの手で人生を破壊してしまうのです。過去は戻らないとわかっているにもかかわらず、人生に幕を降ろそうとします。失敗をしない人など、一人もいません。失敗は一つの出来事にすぎず、失敗者になったわけではないのです。第三に、極度の貧困に陥った時、自尊心は破壊します。人は、極度の貧困により、人を避け、何を言



われても傷つくようになり、気持ちが荒んでいきます。家族に会うことすら、拒否するようになります。私たちが富むことが——祝福されることが——神の御旨なのに、人生を放棄してしまうのです。第四に、重い病に罹り、人の手を借りるようになると自尊心を失います。その手は神の御手なのに、握ろうともしなくなります。私たちが癒され、健康で暮らすことが、神の御旨であるのに、そのことに気づきもしません。第五に、人は人格を無視されたときに、自尊心を失います。夫から無視され、舅や姑から無視され、女だからと無視されるときに、自尊心は大きく傷つきます。人格を無視することは、殺人に等しいことを忘れてはなりません。

自尊心を取り戻すためには、神の救いと自尊心の関係を知ることが大切です。イエス様は、貧しく疎外された存在として生まれ、十字架に架かるまで、安住する所がありませんでした。すべては、私たちを富ませるため（Ⅱコリント 8:9）、呪いから解放するため（ガラテヤ 3:13～14）でした。私たちは、新しく造られた被造物であり、神の子どもです。私たちにとって重要なのは、神の御評価であって、この世の評価ではありません。そして、自尊心を取り戻した私たちには、イエス・キリストの再臨、新しい天と新しい地、花嫁のように着飾ったエルサレムが待っています。ここに、私たちの自尊心と尊厳の根拠があるのです。私たちは、十字架のもとで新しく生まれ変わりました。十字架こそ、乳と蜜の流れるカナンの地であり、緑の牧場であり、憩いの水際なのです。十字架のもとで、永遠なる自尊心を取り戻す皆さんでありますよう、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。†

## 真の祝福は何か



曾祖父はチョンジュの李氏の家系の8代目であった。曾祖父が当時ピョンヤンで活動していた宣教師たちから福音を受け入れ、後代に至るまでこの貴い信仰の遺産を残してきた。今から120年前曾祖父はピョンヤンのシンヤンリという場所で住んでいた。しかし8代目であった曾祖父がイエスを信じた後、篤実なクリスチャン

となり、教会を建てることに献身した。そして、彼の息子である9代目、祖父が9人の子どもを授かった。その後子孫たちは皆福音を宣べ伝える者となっている。

おじイ・ギョンジュン牧師はシン・ヒョンギョン牧師とピョンヤン神学校の同期だ。イ牧師は1師団の軍専属の牧師として20年もの間使役をし、プサンで30年間イエス長老統合派グァンアン教会に仕え、プサン洞老会、総会海外宣教師長として、総会に仕えた。おばの夫ユン・ミョンホ牧師はグァク・ソンヒ牧師と神学校の同期としてハンヤン教会で牧会をして、アメリカに渡りワシントン地域最大の韓人教会であるワシントン中央長老教会を建て、ニュージャージーソンウン教会で引退するまで生涯を牧会することに捧げ



た。このすべてのことは曾祖父が根づかせた福音の種の実だ。

韓国教会の聖霊運動を論ずる時に必ず 1903 年ウォンサン大リバイバル運動から始まらなければならない。ハーディー宣教師の聖霊運動を意味する。1907 年ピョンヤン大リバイバル運動もウォンサンの聖霊運動に力を得てその火がついた。ソウル神学大学パク・ミョンス教授の論文を見ると、ピョンヤン大リバイバル運動当時、異言を語ったとされる記録が残っている。宣教師たちがアメリカ宣教本部に送った報告書に、信者たちが互いに知らない言葉で祈ったと記録されている。1910 年、カンファドのマリ山リバイバル聖会の時も異言を語ったと記録が出てくる。聖霊運動の冬眠期間である日帝の強占期を過ぎ、解放を迎えた後、聖霊運動にかこつたパク・テソン伝道官等、各種異端の出現で聖霊の働きが消滅したようだった。そうした中 1958 年 5 月デジョ洞で天幕を張り開拓した純福音教会を通して聖霊運動が上り始めた。

今は、宣教のパラダイムが変わっている。自国民が自国民に福音を直接伝えるシステムへの転換が必要だ。なぜアメリカと西欧の宣教師たちの働きが失敗に終わったのか。もちろんアメリカと西欧の宣教師たちの寄与と業績は大きい。しかし、それぞれアメリカと西欧の宣教師がリーダーとしている場所で宣教の帝国主義の残存として反米感情が色濃く表出している場合が多い。私たちはここで宣教の新しい道を探さなければならない。国内在住の他文化の家族へ福音を伝えなければならない。そして彼らが自分と同じ民族に福音を伝えられる道を開いてあげなければならない。これが最上の宣教戦略だ。

**主のしもべは仕える手本を見せなければならない**

国教会が困難なことは、先輩たちのこのような美しい信仰の伝統をよく受け継いでいないことだ。聖霊が離れていった場所には分裂と妬みと恨みと告発で乱れる。宗教指導者らは互いを世の法廷で告発しながら自らリーダーシップを失っていく。教会内で解決すべき物事を世の法廷に持ち出して笑い者となるのだ。教会のことを世の法でどうして判断できようか。このすべてのことは聖霊が離れた場所で起きる現象だ。

今年はヨイド純福音教会創立 60 周年だ。私がヨイド純福音教会で働きを始めて 40 年になる年でもある。ヨイド純福音教会で使役を始めて 40 年、担任牧師になり 10 年を迎える年だ。60 周年行事準備委員会では、教会創立 60 周年スローガンを「苦難と栄光の 60 年」とした。私は昨年から 1 ヶ月に一度、非常に困難な環境の中で生活しておられる聖徒宅へ家庭訪問し、愛を伝える使徒行伝的牧会に力を入れている。使徒行伝教会の姿は「仕えること」と「救済」だった。主のしもべは仕える手本を見せなければならない。使徒行伝の教会を見ると、教会内に貧しい人がいなかった。なぜだろうか。有無相通の手本を教会員らが見せたからだ。使徒行伝に出てくる教会の最初の問題が発生したのも、救済する時、ギリシャ語を使うユダヤ人から、ヘブル語を使うユダヤ人に対して、自分たちのやもめらが、日々の配給でおろそかにされがちだと苦情したことだった。それほど救済は難しく、重要なことなのだ。

「すると私たちの教会に出席する教会員たちの中で最も大変な暮らしをする人は誰なのか。彼らはどのような暮らしをしているのか。その信者たちは祝福という言葉の意味をどのように解釈しているのか。」

ある日このような疑問で頭がいっぱいになった。そしてその



質問の答えを、家庭訪問を通して得ている。

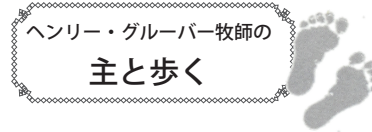
### 真なる感謝は環境を超越する

昨年、私がまず訪ねたところはロンドンポにある無許可住宅に暮らすおばあさん執事さんの家だった。その方は2畳程度の狭い空間で1人で住んでいた。おばあさんは1ヶ月に20日ほどリヤカーを引いて紙くずを集め売っていた。日当300～500円ほど。1ヶ月で20日ほど働いて通常6,000～8,000円の収入がある。最近では紙くずを拾うことも競争となっており、難しくなったという。持っている財産は何も無い。それにもかかわらずおばあさんの表情は非常に明るい。おばあさんは突然の担任牧師の訪問に戸惑っていた。家庭訪問する牧師のためにおばあさんが出したものはコップに入った冷たい水一杯。私はそれを気分良く飲んだ。そして聞いた。

「執事さん！何によってそんなに感謝なのでしょう。」

「主が下さった恵みがただ感謝なのです。スクリーンで遠くからでしか見たことのない先生が、私のような人間を家庭訪問してくださるから感謝です。そして紙くずを集めて得たお金で献金できるから感謝です。苦難の中にも感謝があり、喜びの中でも感謝です。」

私はおばあさんの告白に大きく感動した。真なる感謝は環境を超える。そのおばあさんから環境を超えた感謝の信仰を見ることができた。私はおばあさんと一緒に礼拝を捧げた後、すべてのことを尽くして励ました。そして予め準備しておいた生活必需品と費をお渡しした。おばあさんの両目から涙があふれ、顔に感動の笑顔が輝くのを見ながら、良い気持ちで初めての家庭訪問を終えた。†



## 神よ、 わたしをお守りください



「神よ、わたしをお守りください。わたしはあなたに寄り頼みます。」(詩篇 16:1)

1990年、ソ連連邦が分裂された。自由世界の完璧な勝利のように見えた。聖霊様は私に、ソ連が崩壊したからとして、西欧世界が安心して武器を削減し軍隊を縮小するとき、共産国家が再びよみがえるのを見るであろう、と語られた。

1990年ブラジルのサンパウロで、100余りの左派政府と機関が密かに集まった。彼らは、ソ連連邦分裂によって共産主義から解放された東ヨーロッパとアジアの国々にかわり、これから南米を左派勢力へと転向させるための計画を立てた。

「サンパウロ・フォーラム」として知られるこの集いは、15

年間その存在自体が秘密だった。ブラジルのルラ前大統領が、2005年サンパウロ・フォーラムの計画通りに、左派勢力が国際的に連帯し、厳密に南米を左傾化させてきた事実をひけらかすことで、知られるようになった。

「ソ連連邦分裂と中国解放によって共産主義は消えてなくなるだろう」という西欧世界の純真な期待とは裏腹に、南米ではチリとパラグアイを除いてすべて左傾化された。コロンビアも、判事たちと言論は左傾化されてしまった。

文化に入り込み、キリスト教の基盤を崩す左派勢力の戦略は、新しい現象ではない。1910年からイギリスで始まり、ヨーロッパ、アメリカにおいて根気よく取り込んできた現象である。伝統的には、共産主義者たちは、労働者や資本家の間で階級闘争をすべきだと煽り葛藤を引き起こさせ、社会的混乱を招かせた後、政権を掌握する。しかし、「すべてが努力すれば成功できる」というアメリカン・ドリームを持つアメリカ人は、財産家に対する敵愾心より、むしろ尊敬心を持っている。アメリカ人は、1世代目の移民者が大統領になれる、地球上唯一の国家だ。

共産主義者たちは、アメリカ人が家族、教会、国家、神を愛し忠誠を尽くす限り、アメリカを共産主義国家や社会主義国家にするのは不可能だと悟り、根気よくユダヤ——キリスト教文化を解体させる文化的共産主義革命を進行してきた。彼らは、家族や教会、キリスト教を解体し弱体化させようとする、目的を持って動いている。

しかし、「資本階級に対抗するために労働者が連帯して闘争すべきだ」という、ソ連と中国式共産主義だけに馴染んできた牧会者やキリスト教リーダーたちは、アメリカで起っている変化の本質を深く悟ることも対処することもできなかった。

1960年代のアメリカは、90%を超える人が教会に通っていた。全世界から人々がアメリカに移住してきた。移民者たちはみな英語を学び、アメリカ文化や思想を受け入れた。彼らはみな、キリスト教教徒となりアメリカ人となった。1940年代より、ハリウッドはアメリカの恥部を露わにし、アメリカ文化を墮落させる映画を作り出した。1960年代の終わり頃には、アメリカ文化が全般的に反米へと変わりつつあった。

まずは大学において、アメリカ的なすべてのものを疑い、学問という名で懷疑し分析しながら、若者たちはアメリカ人としての自信感を失いつつあった。小さな過ちも大きく浮き彫りにし、長点は全く見えないようにして罪に定める、サタンのもとで育った世代だ。

ユダヤ——キリスト教文化を基盤とし、世界強大国となったアメリカに対する自尊心の喪失は、アメリカ的価値観を捨て、新しいものを試みるべきだという声に変わった。多様性と進歩性という名で、性的な放縦や文化的墮落が合理化された。その結果、アメリカの衰退をもたらしたのである。

民衆党の次期大選の走者として取り上げられているエリザベス・ウォーレン上院議員は、1970年代以前のアメリカ人家庭は、家長一人で働いていたが、夫婦が共働きをしている今より、もっと豊かに暮らしていた、という資料を発表した。ウォーレンの資料は、アメリカが正教分離の原則だと述べてつも、公共機関から神の御言葉を取り外し、教育現場から祈りと十戒を捨ててから、アメリカ人は事実上非常に貧しくなった、ということを証明してくれるものだ。夫婦が共働きをして稼いでも、家長一人で稼いだときより生活は苦しく、貯金はできないという。ですから、アメリカ人の財政を食い尽くす虫、つまり財政的呪い



が臨んだのである。

共産主義が胎動されるときから、共産主義者たちは中国や帝政ロシアのように、腐敗して混乱な貧しい国には暴力的革命を通して共産革命をした。しかし、イギリスやヨーロッパ、アメリカのような先進国では社会主義、進歩主義など、あらゆる名の下で、性自由、中絶自由など、ユダヤ——キリスト教文化解体運動をしてきたのである。

1884年、イギリスで「フェビアン社会主義」という団体が結成された。フェビアン社会主義は、労働党を創立し、ロンドン経済隊を立てた。これらは前面に出て行動するのではなく、後ろから厳密に行動するため、フェビアン社会主義についての詳しいことは報じられていないが、世界を動かす最も強力な組織中の一つである。

ノーベル経済学賞を受けた48人中の13人、つまり、27%がロンドン経済大学出身だ。ロンドン経済大学は、世界で最も多くの億万長者を輩出してきた。ならば、フェビアン社会主義は、経済分野においては世界で最も大きな影響力を持っているともいえよう。フェビアンは、ローマ将軍の名前だ。彼は戦争で、決して正面攻撃をせず、後方から根気よく攻撃し敵を疲れさせ、戦意を失わせることで戦争に勝った。フェビアン社会主義の国際シンボルは亀である。少しずつ散発的でありながらも確実に、イギリスを非キリスト教社会主義国家に変化させたのである。

1920年、フェビアン社会主義者たちは12の綱領を作成した。その内容を要約すると、国家基盤施設、産業、交通、通信、保険、年金をすべて政府所有にする。宗教（キリスト教）の影響力を弱化させる。家族を解体する。目標達成のために、必要で

あれば武力を使うという内容だ。アメリカや南米、ヨーロッパ、アジアの国々を脅かす者たちは、フェビアン社会主義者たちのように、漸進的に議会民衆主義を利用し国家を左傾化させようとしているのである。

アマレク部族は、出エジプトから荒野をさまようヘブライ人たちの中で、遅れとってついて来られない弱い者たち（老人、子ども、女性）を後方から攻撃した。神はアマレクを立ち滅ぼすよう命じられた。アマレクのように、社会主義者たちは教会を正面攻撃せず、学校における性教育を通して子どもたちを、またフェビアンという名で女性たちを、更には世帯分裂を通して老人たちを攻撃している。カナダ、イギリス、ヨーロッパでは、ケイやレズビアンの同性結婚や、フェビアンに賛成する人だけに言論出演の機会を与え、政府要職に任命し、公職生活が可能な社会へと変わりつつある。クリスチャンが非主流となったのである。

聖書は、この地の国は神の国になるであろうと宣言された。ソ連は、キリスト者1千2百万人を殺めてしまった。しかしソ連は消えてなくなっても、ロシアにキリスト教は健在している。キリスト教を排除しようとした中国で、キリスト教は驚異的リバイバルが起きている。1907年アズサに聖霊が注がれてから、キリスト教歴史上最も多くのキリスト者が聖霊を受け、聖霊の賜物を用いている。中東を含め、世界95%の地域でキリスト教はリバイバルしているのである。

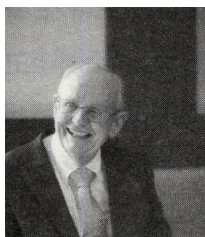
アメリカでは2016年福音主義クリスチャン84%が、キリスト教の価値観を守ると訴える、ドナルド・トランプ候補に投票した。トランプ米大統領は、キリスト教的基盤を守る法律をもう一度立てなおそうとしている。アメリカはキリスト教国家と

しての栄光をある程度回復するであろう。トランプ行政には、アメリカ歴史上、最も多い真実なクリスチャンがいる。彼らは韓国の政治状況を理解している。

教会は連合すれば勝利することができる。教会は教団を超越し、地域を超越して連合しなければならない。それが勝利の秘訣だ。カトリック信者たちの過半数が、中絶を許容しないと訴えるトランプ候補に投票したのである。

プロテスタントとカトリックが互いを異端だと論じ合っているが、反キリスト教勢力にとって、プロテスタントとカトリックは同じキリスト教勢力なのである。共産主義者たちは、プロテスタントとカトリック、みなを迫害するのである。みなが連合して反キリスト教的法律制定に反対すれば、確実に防ぐことができる。だからサタンは、プロテスタントを教団によって、キリスト教を旧教と新教に分裂させるのである。

神は、神の子どもたちではなく、神に敵対するシステムを裁こうとされておられる。神は、福音を伝え、全世界の貧しい人たちに仕える韓国教会を覚えておられる。決して落胆せずに、最後まで祈りをもって大胆に進んでいくなれば、韓国にもう一度驚くべき統一とキリスト教リバイバルが臨むであろう、と私は信じてやまない。†



ヘンリー・グルーバー  
(Henry Gruver) 牧師

「世を歩くとりなし祈祷者」で知られた筆者は18歳の時からアメリカのアリゾナ州フェニックスの犯罪多発地域で主と共に歩き始め、今も主と共に歩いている。彼は全世界のどんな場所でも、出会った人たちのために祈り、福音を伝えている。彼の人生には超自然的な不思議が多くあったが、より大事なことは、彼が主の御言葉に従順しながら歩き、祈っているという事実だ。

## ＊コラム | あなたと共にいる①



地球上に生まれたすべての生命体の中で泣きながら生まれる存在は、人だけである。人は、母胎から分離され、世に出ると同時に大声で泣き出す。赤ちゃんが泣かなければ、医療チームは当惑して赤ちゃんのお尻を手の平で叩くほど、人が泣きながら生まれるということは普遍的な現象だ。いったい、なぜ、人は生まれながら泣き出すのだろうか？

「はじめに神は天と地とを創造された。」(創世記1:1)

人のすべての質問に対する答えが、聖書の最初の聖句に入っている。ならば、人が生まれる時、なぜ泣き出すのかに対する答えも、その中にあるような気がする。私たちが皮相的知識で推測可能なその原因とは、慣れたものの喪失、馴染めない環境に対する恐怖、あるいは肉体的苦痛や空腹などの生理的不便を訴える場合がある。

「地は形なく、むなしく、やみが淵のおもてにあり、神の霊が水のおもてをおおっていた。神は「光あれ」と言われた。する



と光があった。」(創世記 1:2 ～ 3)

天地創造は、「光あれ」と仰せられる神の『御言葉』によってなされた。使徒ヨハネは、その御言葉の中に生命が存在しており、その生命が人々の光であったと説明する。つまり、神が闇の中で御言葉によって生命を創造されたのである。それならば、生命の中に喪失と恐怖、ないしは苦痛や空腹が含まれていたのだろうか？ 聖書は否と断言する。

「神はその光を見て、良しとされた。」(創世記 1:4)

### はじめに神は

人間は、なぜ泣きながら生まれて来るのかを知るためには、人が創造される場面をより詳しく調べてみる必要があるようだ。神は光と闇を分けられ、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。

「タとなり、また朝となった。第一日である。」(創世記 1:5)

しかし、この第一日の昼と夜は、現在私たちが見るような昼と夜ではなかった。なぜなら、神は第四日に太陽と月と星を造られ、昼と夜を汲み取るようにされたからだ。第一日の夕から始まった夜は、おそらく生命と暗闇の混在を意味したのであろう。

「光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった。」(ヨハネ 1:5)

そして「第一日」の「日」も、私たちが暮らしている 24 時間の「日」ではなく、寂寞の時代が過ぎ去り、生命の日が開く昼の始まりを意味したはずだ。神は創造の第二日に、大空(firmament)の下の水と大空の上の水とを分けられ、第三日に陸と海を分けて各種の草と野菜と木が育つようにされた。そして第四日に、大空に太陽と月を造られた。

「神はまた言われた、『天のおおぞらに光があつて昼と夜とを分け、しるしのため、季節のため、日のため、年のためになり』」(創世記 1:14)

また第五日には、海の生物と天の鳥たちを種類にしたがつて創造され、遂に第六日に神にかたどって人を造られた。

「神は彼らを祝福して言われた、『生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また海の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物とを治めよ』」。

そして、神の天地創造の第六日はこうして終わった。

「神が造ったすべての物を見られたところ、それは、はなはだ良かった。タとなり、また朝となった。第六日である。」(創世記 1:31)

この過程の中で、何処を見ても人が泣きながら生まれるべき理由は見出せない。そこには痛みもなく、恐怖もなかった。野菜や木の実を食物として豊かに与えられているため、飢えに対する心配もなかった。「はなはだ良かった」は、六日目の御業を終え、神が第七日に安息されたという記事の次に、創造世界の主人公となる人間創造の場面に加えて、説明されている。

「主なる神は土のちりで人を造り、命の息をその鼻に吹き入れられた。そこで人は生きた者となった。」(創世記 2:7)

人が神の命の息を受け、最初に目を開けたときはどうだっただろうか？ 生まれながら泣き出したという記事はどこにもない。むしろ、イザヤ書においては非常にロマンチックな場面が描かれている。

「わたしはわが愛する者のために、そのぶどう畑についてのわが愛の歌をうたおう。わが愛する者は土肥えた小山の上に、一つのぶどう畑をもっていた。」(イザヤ 5:1)

人の鼻に命の息を吹き込んでその人が目を開けた時、非常に喜んで愛の歌を歌う神の御声が聞こえるようだ。神の命の息を受けて目を開けた人間が、神の愛の歌を聞いて泣き出すはずはない。ならば、私たちは再び、神が人と共に作るために、造成して置いた「ぶどう園」に行ってみる必要がある。

「主なる神は東のかた、エデンに一つの園を設けて、その造った人をそこに置かれた。また主なる神は、見て美しく、食べるに良いすべての木を土からはえさせ、更に園の中央に命の木と、善悪を知る木とをはえさせられた。」(創世記 2:8～9)

その園には食べるに良い木が多くあった。それなのに、なぜ神はそこに「ぶどう園」を造成して置かれたのだろうか？ それはすなわち、そこで人と『共に』ぶどう園を手入れしながら、永遠に『共に』住みたいという切なる夢があったからだ。そして主なる神は、人の心をその園に留めて置くために、人が喜ぶような輝かしい贈り物を用意して置かれた。

「また一つの川がエデンから流れ出て園を潤し、そこから分れて四つの川となった。その第一の名はピソンといい、金のあるハビラの全地をめぐるもので、その地の金は良く、またそこはブドラクと、しまめのうとを産した。」(創世記 2:10～12)

人と共に暮らしたいという神の切なる夢は、「どうかわたしから離れず、わたしと『共に』暮らそう」という、神のプロポーズとして現れた。

「主なる神はその人に命じて言われた、『あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きっと死ぬであろう』」。(創世記 2:16～17)

神はなぜ、その愛の園にぞっとするような「禁断の木」を植

えて置かれたのだろうか？ それは、わたしから離れないで、という切なる風を現わす。生命を創造された神の御言葉から離れ、自分勝手に生きようとして禁断の実を食べるなら、それは死を意味した。しかしながら、「生命を諦めないで」という堅い頼みさえも、神は強制ではなく人の選択に任せられた。

「善悪を知る木からは取って食べてはならない。」

神は、その木に鉄条網を張り巡らせ、接近不可能にすることもできた。しかし、木の周辺には鉄条網はなかった。食べたなら死ぬと警告はなされたものの、食べるか否かは人の選択に任せられたのである。それがすなわち、人に与えられた危険な権利、つまり、『自由意志』だった。真実な愛は強制ではなく、自由な選択が前提となるからだ。

「だから、兄弟たちよ。わたしたちは女奴隷の子ではなく、自由の女の子なのである。」(ガラテヤ 4:31)

そして、この危険な『自由』のゆえに、神の絶えない純愛が始まったのである。

## 初めと終わり

神は永遠から永遠までお独りでおられる方だった。天地を創造される前の永遠の前から神がおられ、またこれからも永遠におられるであろう。

「山がまだ生れず、あなたがまだ地と世界とを造られなかったとき、とこしえからとこしえまで、あなたは神でいらせられる。」(詩篇 90:2)

人を創造される前の長く長い永遠の時間を、神はお独りでおられた。

「イスラエルよ聞け。われわれの神、主は唯一の主である。」(申



命記 6:4)

それがすなわち、神の『絶対孤独』であった。そうして長い間、ご自身の寂しさに耐えつつ生きておられた神は、『愛』するためにご自身の姿にかたどって人を造られ、わたしと『共に』いようと、人の選択に切にすぎられた。

「また主なる神は言われた、『人がひとりでいるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう。』」(創世記 2:18)

アダムは神に『寂しい』と訴えたことは一度もなかった。それなのに、神は先にアダムの寂しさを知っておられたということは、神ご自身が孤独であったからだ。それはつまり、神ご自身が孤独であることの告白でもあった。そして、人の選択にすぎる神の御旨を人が理解できるよう、アダムに女を造ってくださった。

「彼のために、ふさわしい助け手を造ろう」

神はアダムを深く眠らせ、彼から取った肋骨で女を造り、アダムに与えられた。人に向かうわたしの心が、妻を愛するあなたの心と同じだということを、彼が悟り知るようにするためだった。アダムの肋骨で女を造ったがゆえに、妻が幸せなら夫の心は平安であり、妻が病めば夫の心も痛む。それがすなわち、人に対する神の御旨だった。

「わたしはあなたがたの夫だからである。」(エレミヤ 3:14)

アダムは、「これこそ、ついにわたしの骨の骨、わたしの肉の肉」と告白し、愛するようになった。彼らは、神が造成してくださったエデンの園を耕し、守りながら幸せに暮らすことができた。

「これを耕させ、これを守らせられた。」(創世記 2:15)

ところで、何から園を『守る』ようにされただろうか？ そのエデンの園には、彼らに与えられた選択の自由を利用し、彼ら

を倒そうとする『危険な存在』、誰かがいたからだ。それは、人と『共に』いたいという神の想いから、彼を引き離そうとするサタンだった。サタンに対する言及は、旧約聖書のヨブ記と歴代誌、そしてゼカリヤ書に少し書かれているが、エゼキエル書にはサタンをツロの商売人に比喻して説明した。

「あなたは知恵に満ち、美のきわみである完全な印である。」(エゼキエル 28:12)

彼は神に仕える『ケルビム (Cherubim)』、つまり天使長だった。

「わたしはあなたを油そそがれた守護のケルブと一緒に置いた。あなたは神の聖なる山にいて、火の石の間を歩いた。」(エゼキエル 28:14)

神の法則に従ってすべての被造物を管理する強大な権限、つまり、『印』を委任されて持っており、知恵と美貌までも兼備したサタンは、あたかも自分が創造世界の主役であるかのように錯覚していた。しかし、神に愛されるための存在として造られ、しかも『自由』までも賦与された人間が、創造世界の主人公であると知ったサタンは、これに憤慨し、直ちに人を惑わし滅ぼそうと決心した。

「あなたの商売が盛んになると、あなたの中に暴虐が満ちて、あなたは罪を犯した。」(エゼキエル 28:16)

サタンは直ちに、狡猾な蛇を動かし女に接近させた。

「さて主なる神が造られた野の生き物のうちで、へびが最も狡猾であった。」(創世記 3:1)

その蛇が巧妙な話術で女に話し掛けた。

「園にあるどの木からも取って食べるなど、ほんとうに神が言われたのですか？」(創世記 3:1)

女は蛇の誤った表現を正してくれた。

「わたしたちは園の木の実を食べることは許されていますが、ただ園の中央にある木の実については、これを取って食べるな、これに触れるな、死んではいけないからと、神は言われました。」(創世記 3:2 ～ 3)

すると、巧妙な蛇は、すぐにその言葉じりをとらえた。

「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。」(創世記 3:4)

蛇に舌を刺された女が、神のように目が開かれるという、蛇の言葉に騙されてその実を食べ、それをアダムにも渡して食べるようにした。そして、神の夢のゆえに造成された愛のぶどう園は、幻滅と絶望の墓となったのである。

「良いぶどうの結ぶのを待ち望んだ。ところが結んだものは野ぶどうであった。」(イザヤ 5:2)

神は、痛絶な想いでアダムに尋ねた。

「あなたはあの木の実を取って食べたのか？」

アダムは、神から与えられた一緒にいる妻に責任を転嫁し、妻は蛇にその責任を転嫁した。結局彼らは、蛇を造り、女を造られた神にすべての責任を擦り付けたのである。その時から、神はご自身が責任を負うことを心に決め、蛇に仰せられた。

「わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう。」(創世記 3:15)

神は、ご自身の心の痛みを女も共に経験するようにされた。

「わたしはあなたの産みの苦しみを大いに増す。あなたは苦しんで子を産む。」(創世記 3:16)

そして、女の痛みは結局、男の痛みとなった。

「彼はあなたを治めるであろう。」(創世記 3:16)

それだけでなく、彼らから生れたすべての子孫は、絶えず苦難と苦痛を体験しなければならなかった。

「地はあなたのために、いばらとあざみとを生じ」(創世記 3:18)

そうして、最初の日から『終りの日』が始まったのである。

「あなたは土から取られたのだから。あなたは、ちりだから、ちりに帰る。」(創世記 3:19)

それ以来、人類のすべての子孫は生まれる時、一生を苦難と苦痛の中で生き、土に帰ることを予感し、大きな声で泣きながら生まれてくるようになったのである。

「わたしは初めであり、わたしは終りである。」(イザヤ 44:6) しかしながら、その『終り』は絶望ではなく、『完成』の意味だったのである。その完成のために、神の御子が地上に来られ、人と『共に』暮らしたいという神の御旨を、『新しい契約』としてこの世に残された。

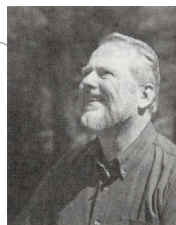
「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」(マタイ 28:20) †

#### キム・ソンイル 小説家

1961年「現代文化」として登壇し、前デウ中工業理事を務めた。キリスト教小説と推理、歴史小説をおもに執筆したキリスト文学科として知られている。著書としては「聖書との出会い」「一つにならせてください」「文化戦争の時代」「第三日の希望」など、多数がある。







## わたしは思い起すであろう

2018年という新しい年が始まるこの時、偉大なる栄光の神が、唯一主だけを信じる神の民となった私たちに立てられた、驚異的御約束の数々を思い起してみるのも良いでしょう。非常に悲劇的なことではありますが、実は神が約束された祝福を妨げるのは、私たちの力で努力し、人間や人間の考えに信頼をおく時です。神の御腕は私たちの方に伸びており、神の御手は神の国の栄光を私たちに与えるために広く開かれています。

けれども、自分自身の努力や方法によって忙しく動き回るなら、神が私たちのために備えられたものを見ることさえ出来なくなります。神の偉大なる愛が——神の約束された一切のものが——見えなくなるのです。神の御約束には、決して失敗がありません。その約束を受け取ることに失敗するのは、私たちです。私たちは首を垂れて目を瞑り、自分の望むものを神に懇請し訴えることに、時間を費やしているため、神が与えてくださるもの、神が私たちの前に置かれたものを見上げることが出来ず、受け取ることも出来ません。神が私たちに望んでおられることは、神ご自身が、神の御言葉——神の約束——を成就されますよう、神を信頼し、神に寄り頼む関係と従順です。これが意味する驚くべきことは、私たちが神に、御約束を思い起こさせることを願っておられるということです。

エルサレムを回復させるために、神の約束について書かれたイザヤ 62 章をもって説教しましたが、あれから本当に長い時

間が経ちました。北朝鮮の解放を準備する使命者に召されて間もなく、神は、東方のエルサレムである平壤（ピョンヤン）に対する特別なメッセージとして、この御言葉が与えられました。イザヤ 62 章 6～7 節は、聖書全体の御言葉の中で最も驚異的で、かつ興奮させられる箇所の一つでもあります。

「エルサレムよ、わたしはあなたの城壁の上に見張人をおいて、昼も夜もたえず、もだすことのないようにしよう。主に思い出されることを求める者よ、みずから休んではならない。主がエルサレムを堅く立てて、全地に誉を得させられるまで、お休みにならぬようにせよ。」（イザヤ 62:6～7）

### 神の御約束が成就される時まで

イザヤが、主に啓示された御言葉を宣言する時、エルサレムは崩壊し、城壁も無いただの石の山でした。神が城壁の上の見張人に命じられたのは、一つの手にエルサレムの罪を、もう一つの手には神の怒りと力を持って、敵の間に立って執り成しなさい、という神のご召命でした。彼らの任務は、昼も夜も絶えず、神に御約束を思い出されるよう、求めることでした。そして、本当に驚くべきことは、7 節に書かれてあるように、神がエルサレムを堅く立てて、全地に誉を得させられるまで、主がお休みにならないようにすることでした。全世界が平壤の回復を見、その偉大さと栄光を宣言する光景を想像してみてください。

神の御約束が成就される時まで、私たちが神に思い出されるように求めること、これこそが、神の御心です。

聖書を通して、私たちは神の御言葉全体に染み付いた、『贖い』という驚くべき栄光ある主題を見ます。神に、神の契約を思い出されるように求めること、これが神の契約の大きな脈略であ

り、神の契約のしるしです。

創世記 9 章に、この最初の契約が書かれています。詳しく見てみましょう。

『わたしはあなたがた及びあなたがたの後の子孫と契約を立てる。またあなたがたと共にいるすべての生き物、あなたがたと共にいる鳥、家畜、地のすべての獣、すなわち、すべて箱舟から出たものは、地のすべての獣にいたるまで、わたしはそれと契約を立てよう。わたしがあなたがたと立てるこの契約により、すべて肉なる者は、もはや洪水によって滅ぼされることはなく、また地を滅ぼす洪水は、再び起らないであろう。』さらに神は言われた、『これはわたしと、あなたがた及びあなたがたと共にいるすべての生き物との間に代々かぎりなく、わたしが立てる契約のしるしである。すなわち、わたしは雲の中に、にじを置く。これがわたしと地との間の契約のしるしとなる。わたしが雲を地の上に起すとき、にじは雲の中に現れる。こうして、わたしは、わたしとあなたがた、及びすべて肉なるあらゆる生き物との間に立てた契約を思いおこすゆえ、水はふたたび、すべて肉なる者を滅ぼす洪水とはならない。にじが雲の中に現れるとき、わたしはこれを見て、神が地上にあるすべて肉なるあらゆる生き物との間に立てた永遠の契約を思いおこすであろう。』そして神はノアに言われた、『これがわたしと地にあるすべて肉なるものとの間に、わたしが立てた契約のしるしである。』（創世記 9:9～17）

『契約』とは、堅い約束であり、両者間の契約です。契約あるいは約束は、殆ど両方とも守らなければなりません。洪水後、神はご自身と地球上のすべての生き物の間に堅い約束を立てます。けれどもそれは、神の最初の約束ではありません。「わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえと

の間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう。」（創世記 3:15）——これが、メシヤ来臨に対する最初の約束です。しかしこれは、神のほうからの一方的な約束でした。洪水後に立てられた両者間の契約とは異なります。

契約は、大体両者間の約束であるとともに、ある証拠の形態を持つこともあります。殆どは署名や印鑑が押された書類ではありますが、常にそうとは限りません。他の物が、証拠の役割をする場合もあります。ところが、この最初の神の契約の場合は、一方的でした。神は、いかなるものも要求されませんでした。神の約束を受け取るために、私たちがやるべきことは何もありません。それを信じようと努力する必要もありません。神はただ単に、もはやこの世を洪水によって裁くことはないと約束されました。そして神は、この堅い契約のしるしを立てられました。これが『虹』です。さらに神は、そのしるしに対してこのように仰せられます。——「にじが雲の中に現れるとき、わたしはこれを見て、神が地上にあるすべて肉なるあらゆる生き物との間に立てた永遠の契約を思いおこすであろう。」

私たちは、この最初の約束と契約のしるし、そして神の反復された陳述からのしるしは、私たちが思い出すようにするためではなく、神ご自身が思いおこされるためである、ということがわかります。神は、仰せられます。『思い起すであろう』——当然、神はいかなるものをも決して忘れておられません。それなのに、どうしてこのような契約のしるしを立て、ご自身が思い起すようにされたのでしょうか？ なぜ、エルサレムの城壁の上の見張人に、神が思い起されるように求めなさいと命じられたのでしょうか？ 特に、イザヤ書 62 章 1 節に、「シオンの義が朝日の輝きのようにあらわれいで、エルサレムの救（すくい）が燃

えりたいまつの様になるまで、わたしはシオンのために黙せず、エルサレムのために休まない」と語られた後、すぐにです。もちろん、神は覚えておられます。いかなるものも、私たちが神に思い起こされるよう求める必要はありません。それなのはどうして、神は私たちを、神が御約束を思い起こされるよう求める者として召されたのでしょうか？ なぜ神は、契約のしるしを立てられるのでしょうか？

### 私たちへの愛のゆえ

聖書全体を通してわかることは、まさにこの事を——御約束を神ご自身が思い起され、その御言葉が成就されるよう懇願する働きを——神の民たちがするという事実です。ここで幾つか聖書箇所を見てみましょう。

「あなたのしもべアブラハム、イサク、イスラエルに、あなたが御自身をさして誓い、『わたしは天の星のように、あなたがたの子孫を増し、わたしが約束したこの地を皆あなたがたの子孫に与えて、長くこれを所有させるであろう』と彼らに仰せられたことを覚えてください。」(出エジプト 32:13)

「われわれはあなたに対して大いに悪い事を行い、あなたのしもべモーセに命じられた戒めをも、定めをも、おきてをも守りませんでした。どうぞ、あなたのしもべモーセに命じられた言葉を、思い起してください。すなわちあなたは言われました、『もしあなたがたが罪を犯すならば、わたしはあなたがたを、もろもろの民の間に散らす。しかし、あなたがたがわたしに立ち返り、わたしの戒めを守って、これを行うならば、たといあなたがたのうちの散らされた者が、天の果にいても、わたしはそこから彼らを集め、わたしの名を住まわせるために選んだ所に連れて

来る』と。」(ネヘミヤ 1:7～9)

「昔あなたが手に入れられたあなたの公会、すなわち、あなたの嗣業の部族となすためにあがなわれたものを思い出してください。あなたが住まわれたシオンの山を思い出してください。」(詩篇 74:2)

「そこでヒゼキヤは顔を壁に向けて主に祈って言った、「ああ主よ、願わくは、わたしが真実と真心とをもって、み前に歩み、あなたの目にかなう事を行ったのを覚えてください」。そしてヒゼキヤはひどく泣いた。(イザヤ 38:2～3)

神はなぜ、私たちに思い起こされるよう求めなさいと命じられたのでしょうか？ 一つだけ単純な、かつ栄光ある理由は、この世のいかなる宗教においても、このようなことは見いだせず、また彼らが理解することもできないということです。唯一聖書だけが、この信仰、この宗教は神から与えられたものであると述べており、私たちはそれを全世界に宣言します。

これは、神は私たちを物凄く愛しておられるがゆえに、同等に接したいと望んでおられるからです。神が私たちを愛される時、ただ遠くから、天の高い所から愛しておられるわけではありません。神の愛は、直感的であり、人格的であり、今ここに、私たちと共にあります。私たちが神の約束について説明してくださいと、神に要求することのできる、この驚くべき関係を立てられたのは、まさに私たちへの御愛のゆえです。だからこそ、私たちは神に懇願することができるのです。「思い起してください！」——すると、神の御答えは「思い出す」「覚えている」です。

聖書に一貫して見られるこの主題を追っていくと、何か月後にある受難週と復活にその定点が合うようになります。嬉しいことです。この新しい発見と探検の旅に共にあずかりましょう。†





キル・ウォンピョン  
釜山（プサン）物理学科教授

## ある物理学者が悟った 霊魂に関する話

若き日、唯物論に陥り、虚しさの中で彷徨っていた私が、いかにして霊魂の存在を信じ、神に出会うことができたかを書いている。この文章を読むすべての人が、以前の私が真理だと誤解し、囚われていた唯物論から抜け出し、霊的世界における喜びを分かち合ってもらえれば幸いである。

【教育による惑わし】：内向的な性格で読書好きな私は、中学3年生の時に、大きな変化を体験した。生物の教科書に「あらゆる植物は細胞で構成されている」と書かれた箇所に衝撃を覚えたのである。動物も細胞で構成されていることを知り、自分は何から構成されているのだろうかとなった。二週間ほどお寺の中にあった図書室で人間に関する本を読み、「人間とは何か？」について2時間にわたりまとめた。その内容は生物学的、悪くいえば唯物論的な人間観であったが、真理だと思った。

しかし、真理を知ったという感激も一時、次の瞬間、人生が虚しいと感じた。とにかく寺から外に出ようと、石階段を降りていると、太陽の光が強烈に感じられた。空を見上げると、雲一つない青空であった。その瞬間、眩暈がしたので、手すりを掴んだら、「どうして私は虚しいと感じたのだろうか？」という問

いが浮かんできた。直前の出来事であったが、思い出そうとしても、全く思い出せなかった。しばらくして、「もう少し調べてみよう」と思い立ち、再び図書室に戻った。

【神に向かって絶叫】：大学卒業後、アメリカに留学し、学問を通して私を知ろうという目標を持って、熱心に勉強した。しかし、唯物論と虚無主義からは抜け出せなかった。ある日、人生について思い巡らしていた。すると、虚しさが強く押し寄せてきて、神に向かって涙を流しながら、若干の憤りとともに絶叫した。「神様、いったいこれはなんですか？ 死ねば何も残らず消えてなくなるなんて、これは戯れですか？ いったい、なぜ私を造り、こんなに苦しませるのですか？」——当時、私は神を信じていなかったが、瞬間的に次の言葉が飛び出した。「神様、私を助けてください、このどん底から救い出してください」——深い虚無感の中、手を高く上げ、涙を流しながら叫んだ。

藁をも掴む思いで、1985年の夏、聖書を読み始め、一日5時間読んでいた。最初に感動を受けた箇所は、イエス・キリストが十字架に付けられ、死にながらも「父よ、彼らをおゆるしてください、彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」（ルカ 23:34）と、自分を死に至らせる人々を赦される場面である。「どうして、この方は死にながらも、自分を殺そうとする人たちを赦せたのだろうか？」——このように感動を受けた理由は、中学3年生以来、死について疑問を持ち、悩んでいたからであろう。

【すぐに信じた霊の世界】：そのことがあって2週間経ったある日、昼食後に机に座っていたところ、疲れていたせいで、

そのまま眠ってしまった。起きなくてはと思いつつも、再び眠ってしまう——このことを二、三回繰り返していたところ、突然目の前に映ったのは、椅子に座って眠っている自分の姿であった。「不思議だな、私が自分の姿を見下ろしている」と思った。「これが死ぬことなのか」という思いがした。「今死んだらだめ！」と思った瞬間、目が覚めた。このような生々しい体験があった後、開いている日記帳に目がとまると、その日記帳には『靈魂』という単語が大きく書いてあった。眠る前に靈魂について悩みながら眠ってしまったからであろうか。

靈魂に対して何かわかるような気がしたので、私はペンを持った。しかし、思い出そうとしても思い出せなかったので、聖書を読み始めた。何節か読んだとき、「私たちは朽ちる肉体を持っているだけでなく、永遠に生きる魂がある」という箇所があった。その聖書箇所を読んで涙が浮かんた。何とか堪えて聖書を読み続けていたが、また同じ内容が書いてあった。その箇所を読むと、顔を両手で包み隠すようにして、喜びの涙を思いっきり流した。あまりにも嬉しくて、一人でぴょんぴょんと飛び跳ねた。そして、日記帳に「私にも二つの生命がある。肉体の生命と永遠の生命がある」と大きく書いた。僅か1カ月前に神に向かって絶望の涙を流していたその机で、喜びの涙を流していた。私の人生で最高の喜び、至高の出来事だった。長い間閉じ込められていた深い監獄から解放されたような喜びだった。それから三日後、私は気持ちが落ち着いたところで、新しく発見した真理を考察し始めた。

**【心に対する解釈】**：私は中学の時から、心は脳から生じるという唯物論を信じていた。教育をとおして、心は脳から生じる

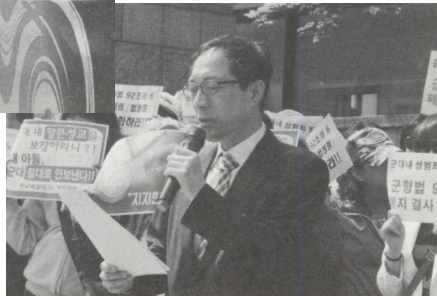
と教わり、事故などにより脳が損傷すると、精神障害が生じるのを見て、その確信を強くしていた。靈魂の存在をコンピューターに例えると、脳を含め『肉体』をコンピューター、『靈魂』をユーザーと考えることができる。コンピューターとユーザーは一体で動作するが、この時にコンピューターの一部が壊れると、一部の作業は不可能になる。だが、コンピューターが動いていないからといって、ユーザーが不在であるとは証明できない。同様に、脳の損傷による精神障害の現象だけでは、靈魂が存在しないともいえない。靈魂の存在が説明できることを知り、唯物論的論理が崩れ始めた。今まで私の人生を暗くしながらも真理だと思っていた唯物論が、私たちが生きる世界の半分を無視する単なる仮説にすぎないと知ったとき、私はどれほど喜んだことであろうか。

**【神に出会う】**：靈魂の存在について、論理ではなく、証拠が欲しかった。その時、神がおられる霊の世界があり、私の内に霊である『魂』があることに気がついた。1985年の大晦日に「来年は神様に出会おう」と決意し、1986年から祈り始めた。神は私の祈りを待っておられ、10カ月間のすべての祈りに答えてくださった。8月に博士学位を取得し、10月に釜山大学の教授となった。ある日、韓国に戻る飛行機の中で、今までの祈りを回想していた。その時、突然前のほうからさわやかな風が吹いてくるような感じがした。と同時に、「神は存在している」という信仰が心に強く押し寄せてきた。喜びの余り、じっと座っていられず、飛行機の通路を行ったり来たりした。

神がおられるならば、私は靈魂を持つ、死んでも生き続ける『永遠な存在』であるに違いない。これ以上、私は何も望まない。



軍隊での同性愛処罰及び刑法廃止を  
反対する集会にて



まるで全世界を手に入れたような喜びだった。「唯物論に縛られ、今も苦しんでいる多くの人がいるはずである。この人たちに私たちは永遠の命を持つ存在だという真理を知らせたい」と決心した。この出来事は30年前のことであったが、今でも変わらないのは、神が生きておられ、私たちに靈魂があるという真理が与える喜びである。この真理は私たちの生きる意味であり、喜びであり、息が絶えるその日まで伝えるべき、神から委ねられた真理である。

時折、目が覚めて「永生」について黙想すると、あまりにも不思議で、「これが本当に現実なのか？」と自分自身を抓ってみる。「私が永遠に生きるなんて！」しかし、この真理は私が作り出したのではない。人に学んだのでもない。神が直接私にはたらかれ、何度も確認させてくださった真理である。この真理は、私にだけ適用されるものではない。この地に住むすべての人がこの真理にあって、享受すべき当然の喜びを分かち合うことを願ってやまない。†



キム・スジャ  
宣教師

## 死なねばならないのなら 死にます

夫ウォン・ソンド牧師と私は、2004年教団の総会から宣教師として派遣されることになり、宣教地であるブルカラリアへと旅立った。現地に到着すると、ゴミ箱を荒らすみずばらしい姿のジプシーたちが目につき、あわれに思えた。この時、神は私たちの宣教の方向を持つようにされた。

夫はキムソン社（LG 電子）で長年勤務し、退社後はキムソン社の下請けとして事業を始めた。ところが IMF 以来、財政的な苦難に陥り、水原（スオオン）にあった第一工場を売却処分した。そして天安（チョンアン）に移り、保証金1千8百万ウォンの家を借りて住んでいた。そんな中、華城群（ファソングン）にあった第二工場を売却し、通っていた教会に建築献金として捧げた。

その後、夫は神の召命を受けて神学に入り、娘と息子は高校に通っていた。私は通っていた教会の総動員伝道主日に、一人の魂を教会に登録することと、私に対する生命登録を引き替えに、大韓生命（デハンセンミョン）に入社するようになった。本当に容易ではない設計士生活に、1年間は泣きながら通った。

初の給料を初実としてすべてを主に捧げた。1千8百万ウォンの借家の保証金も、入社してすぐに、それに該当するプランの積み立てに加入し、その通帳と印鑑は献金として捧げた。こ



うして全財産を神の御前に捧げるようになった。しかし神は、持ち物すべてを捧げた神の子どもを毎日食べさせてくださり、満たしてくださり、責任もってくださる神の完全なる御恵みの中で生きるようにしてくださった。

そうする中、娘と息子が高校時代、早天礼拝を終え、全家族が新聞配達をして得たお金で宣教師たちを助けた。学校が休みになると、全家族がオサンリ・チェジャシル断食祈禱院に行って断食し祈り、神の国とその義を求めるために訓練したりもした。今は私たち夫婦と子どもたち、全家族がキリストにあって牧師として、宣教師として用いられる祝福を受けている。

### 神が責任もってくださる人生

2004年宣教師に派遣される時、「宣教に必要な費用は神が責任もってくださるであろう」という気持ちだった。ジプシーの町を転々としながら、彼らと共に寝食し、ジプシーたちに食べ物と着るものを分け与えながら福音を伝えた。しかし、派遣教会なしに、私たちの財政だけで宣教するには限界があった。結局、劣悪な宣教地に愛する夫だけを残し、宣教費調達のために涙を流しながら韓国に戻った。

以前勤務した保険会社の設計士として再び働き出した。現地のジプシーたちの生活状況を知っているから、彼らと共にいる夫を思い、またジプシーの子どもたちを考えると、好きな果物も買って食べる気にはならなかった。宣教費のために本当に熱心に働いた。聖霊様の助けによって、私は優秀社員となり、毎年「年度大賞授賞式」にも招待された。

ところがある日、めまい症状がひどく、目の前がちらつく状況

が発生した。しかし、宣教地で苦勞している夫を考えると休むことができなかった。徐々に病勢はひどくなっていき、病院診断結果、脳腫瘍判定を受け、ガンマナイフ治療を受けた。しかし無理したからか、1年6カ月経て再発し、腫瘍は急成長していた。

再発という言葉聞く瞬間、いずれにしろ再発すれば助からないだろう。ならば、「財政を責任もつ宣教師ではなく、宣教地に行って死なねばならないのなら死にます」という気持ちになった。そう決めた私は、主治医に治療を中断して宣教地に行きますと伝えた。すると「6カ月だけ待ってもう一度検査してみましょう。結論はその時に下してもよいのではないのでしょうか」という勧めの言葉をいただき、私は病院を後にした。

その後、私は自分の人生を整理するように、私の手垢のついた家財道具を人に上げたり捨てたりして、宣教地に戻る準備をした。宣教地に戻る航空券を購入し、6カ月が経ったので再び検査を受けた。腫瘍は以前よりも大きくなっていて。私は神にすべてを委ね大胆に受け止めた。そして、親しい人たちと別れを告げ、病んだ体で祖国を離れ、主が指示された宣教地へと向かった。

ブルガリアに到着してから病状はもっと悪化し、顔に麻痺がきて鎮痛剤や睡眠薬なしには眠ることもできなかった。麻痺症状により目と口が歪み、何かに掴まなければ歩くこともできなかった。私の状況は絶望的であったが、夫と共に切に祈ると、麻痺した顔がもとに戻ったりもした。

このような苦難の中でも、私は建てられた六つの教会を巡回し、非常に劣悪なジプシーたちの暖房のない冷たい部屋で泊まり、一緒に礼拝し祈るときに聖霊様は私を通して働き、多くの



▲夫ウォン・ソンド宣教師と共に

ブルガリア現地ジプシー指導者たちと共に、現在六つの教会を建てた。▼



しるしと御業を起してくださった。こうして神は足りない者の私を用いり、神の国を建てていかれた。

それでも症状は良くなりえずに私を苦しめた。苦しむ私を見ていた夫の勧誘で、しばらく治療に専念するために韓国に戻ることになった。この時、熱心に祈る中、チョーヨンギ牧師様とイ・ヨンフン牧師様に按手の祈りを受け、痛みとめまいが癒されたという確信をもつようになった。

神はすべてのものを捧げ、死なねばならないのなら死にますと決心し、地の果てにまで福音を宣べ伝える主の僕を守ってください、用いてくださると信じている。今はしばらく故国で再び使命を全うするための準備をしている。

ヨシュアがアマレクと戦闘する時、アロンとフルがモーセの手を支えて祈るようにして戦争を勝利に導いたように、聖徒たちの祈りと後援は、この貧しくて疎外されたジプシーたちに、大いなる信仰の勝利を持たせるであろう。神が働かれることを期待する。†



ハ・デグン

宣教師ドリーマークワイア指導者

## 神様がくださったのは いつも有益である

生きていれば嬉しいこと、大変なことを経験することになる。嬉しいことを通じて感謝するのは多くあるが、苦労をする時に感謝できるのはやさしくない。神様が私に苦労を経験させる時は確かに耐えられる力もくださるということを知っていながら、簡単に恨みつぶやきを吐いてしまう。しかし、時間が経って振り返って見れば、神の御計画であることを悟り、過去に私の恨みと不平を悔い改め、さらに感謝するようになる。

5歳の時、大きい交通事故に遭った。母が毎日玄関で私を抱いて祈ってくださった後、幼稚園に送り出したりした。しかしその日に限って、母の体調が悪くてベッドに横たわっていたので、母の祈りを受けないまま、私は家を出た。いつものように友達と一緒に幼稚園のバスを待っていた。私はあまりにも腕白だったので、あちこち走り回ることが好きだった。その日も幼稚園のバスを待ちながら商店街の前にある往復2車線の道路を行ったり来たり飛び回った。近所の商店街のゆえに、別に信号や横断歩道はなかった。遠くバンが来ていて友人が危ないから行くなと言われたが、私は「大丈夫、横断して行ける」と言って、再び走り出した。そうするうちに事故に遭い、50日余りを病院に入院した。

私は覚えていないが、近所の商店街の人たちは、私がバンにひかれ飛ばされた時、みんなは私が死んだと思ったそうだ。ところが、誰かが私が体を動かすのを見て、車を後ろに押し出して近所の病院に運んだという。私の体にはその時の傷がまだ残っている。折れた腕と足は大きな傷跡を残さずにうまく治療してもらったが、頭の後ろ側と右側の上部にはまだ傷が残っている。

私はその傷跡がコンプレックスになり、それを他人に見せたくなかった。ところがある日、母は、私の頭にある傷は、神様から与えられたものだと言った。「私は死んだと思ったが、感謝することに神様が助けてくださった。その恵みを覚えるようにと、頭にしるしをつけておかれたのである」と言った。それから、その傷は私に違う意味になった。神様の恵みを記憶する通路となり、不平が飛び出る度々に感謝を悟らせるからだ。

### 患難、忍耐、練達そして希望

平凡な学生の初めての失敗は入試ではないかと思う。私は大学受験に落ちた。母胎信仰ではないが、赤ん坊の時から教会に通い始め、幼稚部の時から青年の時まで、聖歌隊で熱心に奉仕した。修練会にも参加し、聖霊充滿のために祈り、異言の賜物を受けるなど、一生懸命に信仰生活を送ってきたと自負していた。だから失敗してからの失望感は語りつくせないほどだった。疑いと不信、込み上がる怒りで、心は地獄のようだった。ところがふと、自分が間違っているのでは、と思うようになった。涙が出た。私は悔い改めた後、心を引き締めて再び入試準備に取り込んだ。振り返ってみれば、浪人生活の間に本当に一生懸命勉強した。たくさん祈り、いぜんよりもっと神様に頼るようになった。その時、神様が能力を与えてくださるなら、どんな苦しくても成し遂げられる、

という自信感を得た。私は浪人生活の末、延世大学・教会音楽科に入り、合唱指揮を学ぶようになった。私が学びたかったもので、基礎から学ぶことができ、本当に感謝した。卒業を控えた時点で、私は大学院進学のための入試を再び受けた。そのときもまた失敗を経験したが、以前のように神様を恨んだり挫折したりしなかった。神様の備えと能力を信じていたがゆえに、頑張れば必ず失敗しないという信仰があったからだ。

以来、アメリカへ留学に行った。私が通っている学校は、ウェストミンスタークワイア大学 (Westminster Choir College) で、アメリカでも合唱分野においては非常に有名な学校だ。合唱で世界的な演奏団体と共演しており、学校には五つの合唱団がいて、とても活発に活動している。私が所属しているウェストミンスターカントライ (Westminster Kantorei) の合唱団では昨年、アルバムを発売したこともある。

留学時代は、孤独と勉強の難しさ、それ以降の進路について、悩みの多い時期だった。しかし、すでに経験した神様の恵みによって、私を強くし、最も良いものを備えてくださる神様だけを見上げる、尊い時間となった。

昨年5月末に帰国した私は、祈り中で仕える先を探していたが、あるインターネットコミュニティを通じて、ドリーマークワイアという合唱団の副指揮者を雇う公告を見た。ドリーマークワイアは、2002年3月「魂の清い子供たちの賛美を通じて世界宣教をなささい」という、神の御声を聞いて創設された合唱団で、満6歳から12歳の子供たちによって構成されている。私は、ユーチューブを検索して子供たちの歌声を聞いて、この子たちに会ってみたくてオーディションに挑戦した。ある人は留学まで行ってきて副指揮者が何事かと言われることもあるが、合唱



団の設立趣旨と子供たちの清く純粋な姿に惚れて全く問題にならなかった。

オーディションで子供を相手に指揮をしてリハーサルをした。約 10 分ほどの短いリハーサルだったが、子供たちは、私が言うことに耳を傾け、楽しくついてきてくれた、純粋な姿と合唱が私を幸せし楽しませてくれた。以来、ありがたいことに、私は副指揮者と選ばれ、毎週、子供たちと一緒に賛美をするようになった。私にとって、子供に合唱を指導する時間は労働ではなく、ヒーリングの時間だ。すべてが神様の恵みだ。

副指揮者でドリーマークワイアに来たが、2016 年 10 月末から指揮者として任命され、重大な責任を担うようになった。すぐに 1 月から、アメリカ第 33 回のマーチン・ルーサー・キングデー・フェスティバルに参加し演奏をすることになった。聖会で賛美し神様に栄光を捧げ、韓服を着て国楽器と一緒に演奏することで、韓国的な姿を世界の人たちに見せられる機会のゆえに、期待とときめきは大きい。

私たちのドリーマークワイアが、神様の栄光のために完全に用いられることを願い、さらに子供たちが賛美することにより楽しみ、大人になっても賛美する喜びを感じさせられる、指揮者になりたいと思う。

これからも生きていく中でたくさんのが起きるだろう。嬉しいこともあり、耐え難い困難にも遭うだろうが、信仰を持って、神様の計画に従って、毎瞬間、私のために最高のものを備えられる神様に感謝しながら、生きていけるようにと祈る。

それだけではなく、患難をも喜んでい。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は練達を生み出し、練達は希望を生み出すことを、知っているからである。(ローマ 5:3～4) †



全世界的に吹き荒れる

## 性別破壊の熱風を どのようにとらえるか

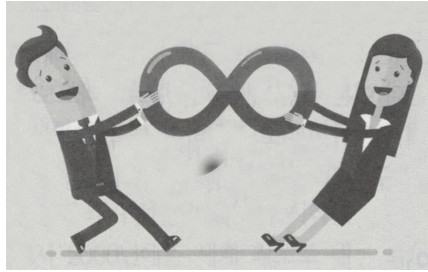
パク・ヨンス アニメ宣教師

羊は、羊飼いが名前をつけてその名前を呼んで初めて反応する動物である。神様は私たちが羊になぞらえてくださった。私たちは羊飼いの声がなければ、どこへ行ったらよいか分からず、また、羊飼いが名前をつけなければ、自分がだれか分からない存在である。この事実を徹底的に否定して事あるごとに「自己決定権」を脅迫的に主張する今日の世代にあって、私たちクリスチャンが、羊飼いであるイエス様の声に従い、御言葉に従う生活を積極的に追求するならば、同性愛文化は、韓国の地から消えてなくなるであろう。

2014 年、フェイスブックに大きな変化があった。加入者が自分の性別を選択するにあたり、選択肢を男性と女性 2 種類から 50 種類に拡大したということだ。以下は、フェイスブックカスタマーセンターのプロフィール修正に対する指針の一部を抜萃したものである。

「性別を使用者指定で設定するが、以上の性別を選択した場合、指定した性別を公開対象として選択できます。ここでは基本性別も併せて選択することができます。」

これは、すなわち「使用者指定」によって性別を選択することができるということである。使用者の指定メニューには、非特定性（ノンバイナリー、non-binary）、両性を持った人（アンドロジン、androgyn）、流動的性別（ジェンダーフィールド、gender fluid）、性別のない人（エイジェンダー agender）などから始まり、汎性愛者（パンジェンダー、pangender）、二つの靈魂（two-spirit）というように、性別を指す用語としては、あまりに奇怪な単語がある。ところが、50 個ほどの選択肢についても排他的という不満が出ており、フェイスブックは、それこそ使用者が好きなように性別を記入できるカスタムポリシーを立てた。



2017 年 10 月 19 日付、ニューヨークタイムス紙に次の記事が掲載された。「カリフォルニア在住の市民は、今日、出生証明書の性別表示欄にノンバイナリー（non-binary）と表記することが可能である。」「ノンバイナリー」とは男性と女性という性別の二分法的区分以外のアイデンティティを指す包括的な用語である。さらに言えば、第三の性を出生証明書に表記できるということである。

「私は男として生れてきたのですが、心のなかでは自分が女だと言っています。私はどのようにして性別を変えることができますか。」これに対して私たちは直ちに反駁できるであろう（そして最も正確な反駁である）。しかし、直観に反して善悪を変えとしても、それが正常な文化として固定されるためには、その前に概念に対する認識が徹底的に変わらなくてはならない。

この作業をするための道具となるのが、まさにジェンダー概念である。

男性と女性という二元性は、別の見方をするならば、人間に最も原初的な属性と言える。赤子が生れてくるや、医師がする事は、「女の子です。」あるいは「男の子です。」ということである。こうして、この子供が世の中に一個人としてアイデンティティが形成される過程で最初の基礎が確立する。これにより性別の確実性がどれほど重要かわかる。生れてきた赤子が男の子か女の子かによって父母の養育法が変わる。性別によって態度や口振りが変わり、何が許され、何がタブーとなっているかが区別される。言うなれば、男女の区分は、社会を構成するための核心的メカニズムとなる。

ところが今日、私たちは、社会秩序の最も核心となる男性と女性という区分を根本的に解体しようとする時代を生きている。好むと好まざるとにかかわらず、既存社会を無条件で否定するこの時代風土、モダニズムの異性中心的思考の弊害に反発して二分法を嫌うポストモダニズムの皮相性がすでに深く根を下ろしたこの時代の考え方は、自分の人生に対する最高決定権は、自分にあると洗脳する。この男女区分という長い真理は 21 世紀ポストモダニズムが占領しなければならない最後の砦のようになっている。ジェンダー理論乃至はジェンダーイデオロギーともいわれる思想は、男性と女性の他に異なる性的実体があると表明して社会のさまざまな分野に浸透し、男性 / 女性の二元性を前提に築かれた社会を根本から揺さぶっている。

### 「ジェンダー」という用語が導入された理由

ジェンダーという用語が導入されたのは、男性と女性を理解

する方式を総体的に置き換えるためである。男性と女性の身体の解剖学的、生理学的違いを表す性 (sex) と違ってジェンダーと (gender) は、男性と女性の心理的、社会的、文化的差異を指す。別の言葉で言えば、「男らしい」(男性性)と「女らしい」(女性性)との違いとも言える。このような意味でジェンダーが初めて使われたのは、1945年に遡ることができるが、その使用が大衆化したのは、1970年代に活発になったフェミニズム運動によってである。フェミニズム運動のもと、その輪郭が形成されたジェンダー概念は、人間の本性は、本質的に中性的であり、性別に基づく社会的役割は、単純に恣意的であるという理論を基礎としている。

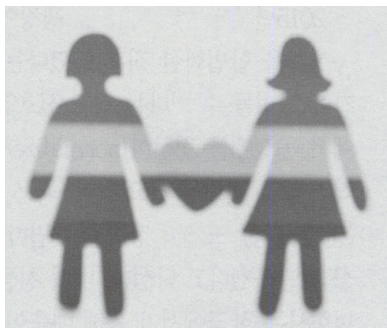
さらに言うと、男性と男性性、女性と女性性の関係は社会的産物であって本質的な連関関係はないということである。生物学的性は、社会的成人のジェンダーと関係ないと強調して男性性と女性性が生物学的差異によって決まるものではないと主張する。例えば、男性として生れてきただけでは、自分が社会でどのように生きなければならないかは、あらかじめ決定されていないということである。このような非本質的な連関関係を本質的な土台とすることにより、人間を分類して自然な欲求を抑えることにより、差別、不平等、不幸が社会に蔓延するようになったとすることがジェンダー理論の問題意識である。私たちが男性あるいは女性にする社会的機能は、身体的特性に基づかないということがジェンダー概念である。さらに、身体的特性で規定される性別でさえも実は、社会化された概念であり、それが内面化された認識であるという。性別に対する根本的な理解を壊して再構成し、個人が自律的に自分の性アイデンティティーを決定すれば、社会における性役割も解消することができ、真

の平等を具現できるという信念に起因する思考である。正しくこれは同性愛、性転換などが含まれた概念である。

このようなジェンダー概念は、必然的に同性愛の社会文化的受容と同性婚合法化を追求する。1995年9月5日北京第4回女性大会 GO(政府機構)会議において性に対する英文表記であるセックス (sex) の代わりにジェンダーを使用することに決定した。これにより、ジェンダー概念の全世界的導入は促進し、男性と女性の二元性を徹底的に排斥するイデオロギーが世界中の隅々まで浸透し始めた。こうして2000年には、世界で初めてオランダが同性婚を合法化して同性愛を法的に保護し、差別禁止法という名のもと、同性愛に反対する立場は沈黙させられてしまうという極端な差別が、まるで流行病のように全世界を駆け巡り、本格的に始まった。

かつて2003年にはベルギー、2005年にはスペインとカナダ、2006年には南アフリカ共和国、2008年にはノルウェー、2009年にはスウェーデン、2010年にはポルトガル、アイスランド、アルゼンチンが続けて同性婚を合法化した。その渦中、アメリカでは続けざまに、次元は違うが、州政府が同性婚を合法化する動きを加速させ、他の国でも同性婚が合法化された。2012年にはデンマークが同性婚を合法化すると同時に、全世界で何と11件、同性婚を合法化した事例が生じた。2013年にはウルグアイ、ニュージーランド、ブラジル、フランス、イングランドとウェールズ、2014年にはスコットランド、そしてアメリカでは14州が同性婚を合法化した。2015年6月にはアメリカ連邦大法院が同性婚を合法化し、同性愛運動が最高潮に達したかのように、アメリカのあちこちで数多くの同性カップルが結婚式をあげて婚姻届をした。ピューリタン精神とキリスト教的倫理





で社会が支えられたアメリカでさえこのような状況なら、残りの国は時間の問題という認識が広まった。

**どんなに覆い隠しても決して性  
はなくなる**

同性愛的生活方式に対するすべての反対を無力化することに、企業による幾何級数的な後援金が日増しに増加している。学校での性教育の時間に同性愛を奨励するのが、当然となり、国連まで性マイノリティーが人権政策を圧迫している状況にあって韓国と韓国教会はこれ以上この時代的 이슈を看過できない状況にある。

2015 年 6 月 ソウル市庁前広場で同性愛者による「QUEER FESTIVAL」が、アメリカ連邦大法院が同性婚を合法化した直後に開催されたということは、韓国も同性愛という時代的潮流に間もなくに巻き込まれるという警告であった。韓国でも文化的、経済的、政治的な次元で同性愛を正常化 (normalize) しようという試みはすでに積極的に広まっており、かなりの支持を得ている。最近、女性家族部は両性平等 (男女平等) の代わりに性平等 (ジェンダー平等) 基盤の政策的整備として、某カード会社側で性中立トイレをつくることとなった。毎年、親同性愛団体に巨額の寄付をする大手のあるコーヒー会社は、韓国だけで今年度の売上が 1 兆ウォンを越えた。そのコーヒー会社による同性愛運動の後援金が韓国人の懐から出ている。ソウルにだけあった「QUEER FESTIVAL」が全国に広がり、QUEER 神学が韓国教会中に混乱を引き起こしている。

同性愛は神様の創造と自然秩序に逆らう重い罪である。創世記から黙示録まで神様は、その民に限りない偉大さと墮落、肯定と否定、善と悪の二元性を教えられる。神様に属したものとそうでないものを分けられる。それゆえ、同性愛とそれを肯定するジェンダーイデオロギーはすべての二元性を否定するという次元で、神様とその国に正面から反対している。根本的に神様に敵対する状況で、どれほど魅力的な言葉で覆い隠しても、その結ぶ実は善良なはずがない。

真のアイデンティティーを探すというジェンダーイデオロギーは、実に自らが何者かを知ろうとする者を根本的にごまかしている。ソウル市長広場で開催された QUEER FESTIVAL にこのような垂幕がかかっていた。「自分が自分らしく生きる世の中」これは同性愛文化だけでなく、21 世紀に見られる汎世界的な文化の支配的なテーマである「自分らしく生きる権利」が堅く貫かれている。イエス様は、私たちを羊になぞらえ、自身を羊飼いと言われた。羊ほど無力な動物もいない。羊は自ら食物を探すこともできず、どこへ行かなければならないのか、何に気を付けなければならぬのか分別できない。羊は、羊飼いが名前をつけてその名前を呼んで初めて反応する動物である。神様は私たちを羊になぞらえてくださった。私たちは羊飼いの声がなければ、どこへ行ったらよいかわからず、また、羊飼いが名前をつけなければ、自分がだれかわからない存在である。この事実を徹底的に否定して事あるごとに「自己決定権」を脅迫的に主張する今日の世代にあって、私たちクリスチャンが、羊飼いであるイエス様の声に従い、御言葉に従う生活を積極的に追求するならば、同性愛文化は、韓国の地から消えてなくなるであろう。†

聖書では、右側に座ることと  
左側に座ることにおいて  
差違があるが、  
これにはどんな理由が  
あるのだろうか？



右手とは、ユダヤ人の慣習から出た「権能と栄光」を意味する隠喩的表現だ。使徒信条には主イエスが、「全能の父なる神の右に座したまえり」とあるが、それは、主イエスは今も天上で統治と権能を持って治めておられるという意味だ。だから詩篇 118 篇 16 節に、「……主の右の手は勇ましいはたらきをなす」と言ったのである。もちろん、神は霊であられるから、右手と左手の区別はない。しかし、ユダヤ人の習慣によって「右手」という隠喩的表現を使ったのである。

聖書には幾つかの例がある。ゼベダイの子ヤコブとヨハネの母は、神の国が臨む時、自分の二人の息子を一人は主イエスの右に、もう一人は左に座らせてくださいと懇願する。——これは天の御国が臨む時、自分の子どもたちに栄光と統治を与えてくださいという意味である。

かつて韓国社会も、左利きは直すべき習慣として見なされた。しかし歴史をみると、左利きの偉人が多くいることがわかる。例を挙げると、アリストテレス、アレキサンダー大王、レオナルドダヴィンチ、ナポレオン、ガンディー、チャーチル、シュバイツァー、モーツァルト、レーガン、ブッシュ、クリントンなど、多くの人がいる。だからといって、左利きの人が賢いというわ



けではない。それは偏見にすぎないだけだ。

マタイの福音書 25 章 33 節に、「羊を右に、やぎを左におくであらう」という表現しているが、これは単純に隠喩的表現として理解するのが妥当だろう。創世記 48 章 12 ～ 22 節にもヤコブが孫たちを祝福するとき、兄マナセには左手を、弟エフライムに右手を置いて祈った。しかしこれを不満に思うヨセフの姿を見ることができる。これもユダヤ人の習慣によって見ていたからだ。また面白いのは、ラケルが息を引き取る直前に子どもを産むが、彼女は「ベノニ」（苦しみの中で生まれた子という意）と呼んだ。しかし父ヤコブは、その子を「ベニヤミン」（右の手の子という意）と名付けた。（創世記 35:18）

またソロモンは、自分の母バテシバを右に座らせた（Ⅰ列王記 2:19）。このように、聖書には右側が左側より優越的概念として表している。新約には、復活されたキリストは神の右の座に着かれたとし（マルコ 16:19）、マタイによる福音書 25 章 31 ～ 46 節には審判の時に右に座した者に祝福を、左に座した者には刑罰を下されるとあるが、これもユダヤ人の習慣から出た隠喩的表現なのである。†

愛する者よ。

あなたのたましいが

いつも恵まれていると同じく、

あなたがすべてのことに恵まれ、

またすこやかであるようにと、

わたしは祈っている。

(Ⅲヨハネ一・二)

---

発行：純福音東京教会・出版部

【翻訳】：諸星健児 執事、林俊秀教育生、間杉綾乃 執事、李 珍 執事、朴秀珍 執事、山野永理 勸士、  
趙芝賢 伝道師、澤田義則 執事、金景娥 執事、朴宰完 按手執事、金澤由紀子 勸士

【日本語校正】：諸星健児 執事、松谷恵理 執事、間杉綾乃 執事、金澤由美 姉妹、吉田綾子 執事、  
笠原幸子 執事、武石みどり 執事、向川 誉 執事、澤田義則 執事

【印刷・製本】：間杉典生 按手執事

【再 編 集】：金澤由紀子 勸士

---